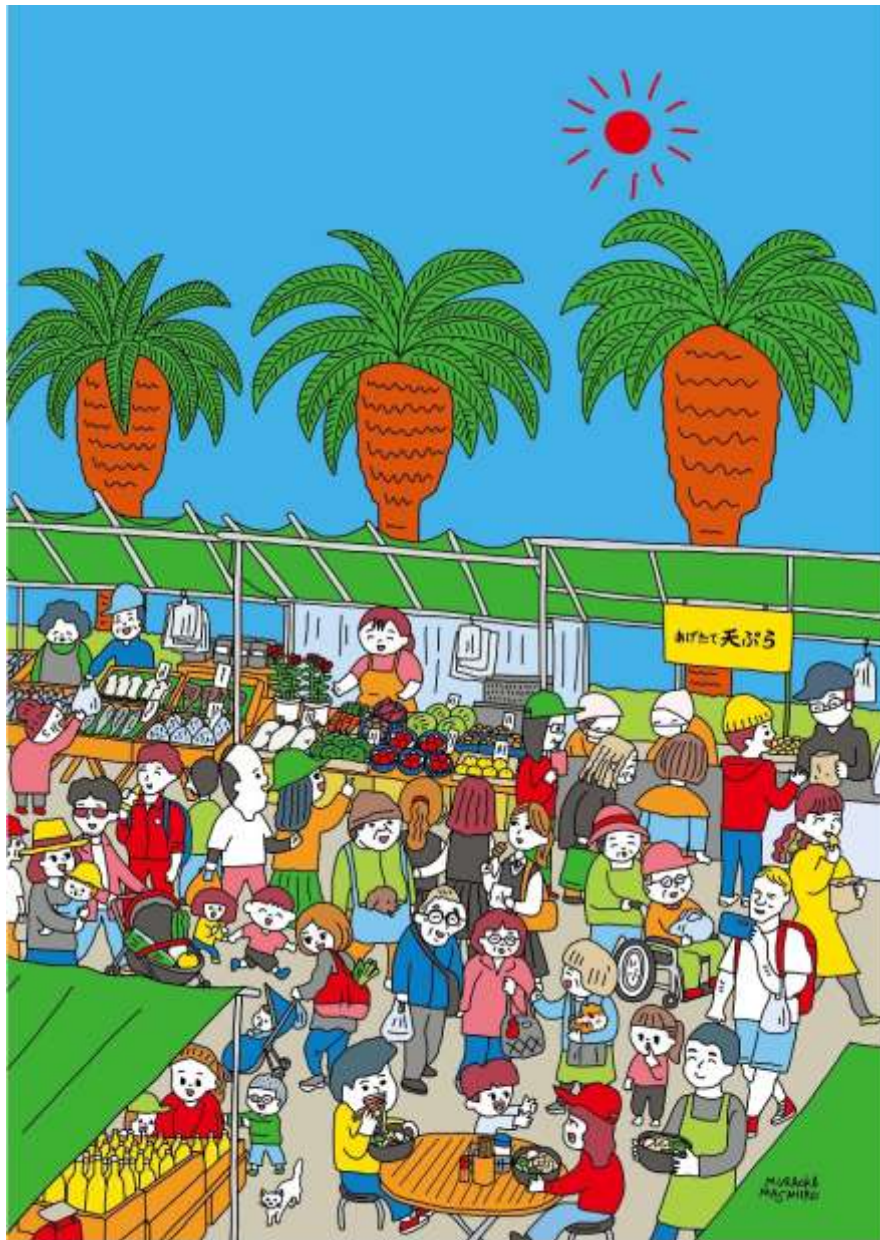


高知市街路市活性化構想



令和7年3月
高知市

第1章 はじめに.....	1
1. 街路市活性化構想策定の背景と目的	1
2. 街路市の紹介	2
3. 街路市の歴史	3
第2章 過去の街路市に関する検討及び取組.....	4
1. 過去の街路市に関する検討	4
2. 街路市活性化の視点	5
3. 前構想における街路市活性化の取組	6
4. 社会情勢及び街路市における変化	8
第3章 街路市に関する調査.....	10
1. 各種調査を踏まえた現状整理	10
2. 視点ごとの現状整理	12
第4章 街路市の魅力と課題.....	17
1. 街路市の魅力	17
2. 街路市の課題	18
第5章 活性化に向けた基本方針と取組	19
1. 基本理念	19
2. 施策の体系	21
3. 活性化に向けた基本方針と取組	22
第6章 活性化の実現に向けて	30
1. 構想の推進体制とフォローアップ	30
2. 構想の指標	31

第1章 はじめに

1. 街路市活性化構想策定の背景と目的

高知市では、昭和 39 年の高知市日曜市調査協議会による答申にはじまり、その後も昭和から平成にわたり街路市を取り巻く環境の変化や、それに伴う課題に対応するべく懇談会や検討委員会などを立ち上げ、日曜市をはじめとした街路市を未来へ継続・発展させるために検討を重ねてきました。また、平成 18 年度及び平成 26 年度には「高知市街路市活性化構想」を策定し、これまでの検討の経緯を元に街路市の魅力と役割を整理し、その結果を元に街路市活性化に向けた方針や取組を設定し幅広い施策を展開しました。

しかしながら、前回の構想策定から約 10 年が経過した現在も、従前から課題となっている高齢化や、後継者不足による出店者の減少、地元利用者の減少などに歯止めがかかっておらず、加えて街路市をとりまく環境や時代の変化に伴う新たな問題や課題が生じています。

一方で、特に日曜市に関しては、高知の観光スポットとしての知名度や人気は高く、高知市有数の観光資源の一つとして、その対応も求められています。

これらのことを踏まえ、将来に向けて持続可能な街路市をめざすため、利用者、出店者、観光客など各視点を踏まえた街路市の魅力や課題を再整理し、時勢に対応可能な新たな構想を策定することとしました。



高知市街路市活性化構想

第1章 はじめに

2. 街路市の紹介

高知市の街路市は、日曜市をはじめ、火曜市、木曜市、金曜市が行われています。

日曜市



高知のお城下・追手筋にて300年以上の歴史を誇る全国的にも珍しい大規模な街路市。多い時は1日17,000人の人出でにぎわいます。

場所：追手筋1・2丁目

起源：明治9年 ※現場所では昭和23年～

長さ：約1km 登録数：375名

時間帯：（4～9月）5:00～17:00
（10～3月）5:30～16:00

藩政時代からある水路の上に戸板を渡してお店が並び、お馴染みさんも多い住宅街の市。今も続く、昔ながらの買い物風景が魅力です。

場所：上町4・5丁目

起源：昭和元年 ※現場所では昭和39年～

長さ：約280m 登録数：15名

時間帯：6:00～16:00

火曜市



木曜市



高知城を間近に望める絶好の景観と環境で、日曜市に次いで人気の市。近年は観光スポットとしても注目されています。オフィス街にあり、昼休みには会社員などでにぎわいます。

場所：本町5丁目・鷹匠町2丁目（県庁前）

起源：昭和元年 ※現場所では昭和46年～

長さ：約190m 登録数：65名

時間帯：6:00～16:00

愛宕商店街とともに発展し、今日では地域住民に欠かせない市としてにぎわっています。JRの高架下にお店が並ぶ独特の風景も魅力です。

場所：愛宕町1丁目（愛宕町広場）

起源：昭和元年 ※現場所では令和3年～

長さ：120m 登録数：14名

時間帯：6:00～14:00

金曜市



令和6月4月1日現在

第1章 はじめに

3. 街路市の歴史



現在の日曜市



◀明治時代



昭和時代▶



◀昭和 30 年頃

高知市に街路市が開設されるようになったのは、元禄3年（1690 年）とされています。この街路市の歴史については、出店者の間には、相当古い歴史を持っていると伝えられていましたが、昭和 30 年代初めの頃までは、まだ正確な開設年次が分かっていませんでした。

昭和 38 年 3 月 5 日発行の「高知の街路市」という図書を見ると、著者でもあり、街路市の出店者でもあった鎌倉幸次氏がこの本の中で、次のように書いています。

「私は街路市組合長在職当時何とかその起源が知りたいと出店者の先輩古老の方々の口伝を片っぱしから聞いてみたり、あるいは県立図書館に日参して、郷土誌や、その他色々の古文書も随分調べてみましたが、残念ながらなかなか見当たりませんでした」さらに、郷土史家で山内家史編主任をされていた平尾道雄氏に調査を頼み、その結果、元禄3年が街路市の起源であることを知ったという記述が見られます。

街路市関係者が高知の市が 300 年近い歴史を持つということを知ったのは、この時からだと考えられます。

また、明治 9 年に官庁が日曜休日、土曜半休になったことに伴い、これまでの定日市が曜市に変更されたことで、日曜市が誕生しました。昭和元年には、現在の各曜市の形態が整い、その後は、開市場所、規模などが変遷しながら現在に至っています。

※画像出典：高知市ホームページ

高知市街路市活性化構想

第2章 過去の街路市に関する検討及び取組

1. 過去の街路市に関する検討

近年の街路市活性化構想策定に至るまでに、街路市を取り巻く環境の変化や課題に対応するためにこれまで幾度か検討組織が立ち上げられています。その主なものは以下のとおりです。

昭和 39 年 6 月 29 日 【高知市日曜市調査協議会】 答申	・青空市反対運動（昭和 34 年）後、警察から「場所再検討」の再三の要請があり、日曜市存続の是非・日曜市移転の可否・日曜市運営の正常化について協議 ・日曜市，他の街路市とも交通事情から縮小の方向を提言
昭和 49 年 3 月 【高知市街路市問題懇談会】 答申	・都市化，モータリゼーションの進展への対応 ・交通問題・流通問題・観光問題等について協議 ・生産者主体の必要性とともに周辺新興市街地への分散・新設，特に土曜市，金曜市の移転を提言
昭和 62 年 2 月 【高知市街路市問題懇談会】 答申	・各曜市の立地条件・交通問題等で提起されている課題について協議 ・生産者の出店が減少しており，出店の促進を図ること等を提言
平成 10 年 12 月 25 日 【高知市街路市問題検討委員会】答申	・街路市の将来方向を検討 ・生活市としての性格付けを明確にし，生産農家の割合を 75%まで高めることを提言 ・土曜市の廃止・移転の意見書を提出
平成 19 年 3 月 【高知市街路市活性化構想策定委員会】 高知市街路市活性化構想 （平成 18 年度版）策定	・地元利用者の呼び戻しと県外利用者の増加 パンフレット，シンボルマーク作成や日曜市の情報提供，休憩所，駐車場，トイレの整備 ・出店者の確保（後継者・新規出店者） 出店基準・光熱費使用許可基準などの見直し，市町村によるイベント出店，広報物を活用した新規出店者の開拓 ・街路市活性化推進組織の確立 出店者組合・活性化推進委員会・高知市で組織の在り方を検討
平成 27 年 3 月 【高知市街路市活性化推進委員会】 高知市街路市活性化構想 （平成 26 年度版）策定	・街路市の理想的な将来像を実現するために 10 プロジェクト・41 の事業を実施。 <代表的な取組> ・出店基準の緩和 ・空き小間を活用した取組 ・パンフレットや Facebook など SNS による情報提供の強化

令和 2 年から世界中で拡大した新型コロナウイルス感染症のまん延時には、街路市においても緊急事態宣言に伴う日曜市の開催見送り（2 回）や，ほかの曜市では時間短縮などの対応を取ることでなりました。

第2章 過去の街路市に関する検討及び取組

2. 街路市活性化の視点

街路市の活性化を図るためにはこれまでの「生活市」としての魅力発信に加えて、「観光資源」としての魅力を磨き上げるために、今後さまざまな対策が必要となります。そのため、以下の5つの視点毎に課題や施策を整理して構想を策定します。

街路市活性化5つの視点

出店者

地元利用者にとっての「生活市」として街路市の維持継続を図っていくに当たっては、街路市を形づくる主役である、出店者の存在が最も重要です。長く課題となっている出店者の減少に歯止めをかけるために、出店者の目線から考えていきます。

地元利用者

「生活市」のもう一つの主役である、地元利用者の減少も長らく懸念されてきた課題の一つです。生活の一部としてはもちろん、長い歴史を持つ地元の誇りとして、街路市を未来へ残していくために欠かせないのが、地元利用者の視点です。

観光客

高知有数の「観光資源」としての価値をさらに高めていくために、県外観光客はもちろん、近年特に増加傾向にあるインバウンドを含む外国人観光客に「訪れてよかった」「また来たい」と思ってもらうため、観光客の視点は欠かせません。

景観

街路市は開設以来 300 年以上も続いてきた歴史的価値を持つ伝統文化であり、市民になじみのある風景です。今後も高知城下に街路市テントが並ぶ風景や、土佐弁が飛び交う街路市の文化を守っていくため、景観の視点からも検討が必要です。

教育・学び

土佐の伝統文化である「生活市」を継承していくためには、その良さや魅力を次世代の若者に発信していく必要があります。高知の将来を担う子どもたちが大人になっても末永く利用してもらえるよう、教育や学びの視点からも考えていきます。

高知市街路市活性化構想

第2章 過去の街路市に関する検討及び取組

3. 前構想における街路市活性化の主な取組

平成26年度に策定した高知市街路市活性化構想に基づき実施した主な取組は以下のとおりです。

視点	主な取組
1 出店者	◆空き小間を活用した取組（休憩所・イベント活用） ・ボランティアによる出店サポート（大学生グループ等） ・出店者向け広報「いち版」による出店者への情報共有 ・新規出店者の募集・開拓（出店基準の緩和・れんけいこうち日曜市出店事業等）  ▲れんけいこうち日曜市出店事業
2 地元利用者	・市広報紙・マスコミへの情報発信 ・食を通じた飲食店との連携 ・車いすの貸出し（観光案内所・シルバー人材センター小間） ・リーフレット・ポスター・SNSによる情報発信 ・アート創出（漫画家3名制作のポスター掲示）  ▲車いすの貸出し
3 観光客	・駐車場・トイレマップによる情報提供 ・外国人向けパンフレットの作成・配布（英語、中国語（簡体字・繁体字）） ・商店街との回遊性向上の取組（商店街でのチラシ配布等） ・手荷物預かり（出店者独自のサービス） ・ミニ観光案内所の設置 ・エコバックの配布 ・宅配支援（令和3年度で終了）  ▲エコバック販売
4 景観	・出店者によるごみ減量運動 ・街路市図の作成・配布  ▲出店者による清掃の様子
5 教育・学び	◆お客様感謝事業の充実（主に市内保育施設へのお買物券配布） ・小学校等での街路市文化伝承（市内44校への街路市だより配布） ・高知商業高校・高知大学等の日曜市での活動への協力（開発商品の販売体験等）  ▲高知商業高校の出店への協力

※◆：次頁で概要を説明

第2章 過去の街路市に関する検討及び取組

前頁の取組のうち、街路市利用者に好評であったものの一例を紹介します。

◆視点：出店者

空き小間を活用した取組（休憩所・イベント活用など）	
事業内容	空き小間を休憩所として活用します。また、空き小間は既存出店者の間口拡大要望への対応や、新規出店者の出店場所としても活用し、市（いち）のにぎわいを増していきます
実施状況	・「れんけいこうち日曜市出店事業」の小間として活用 ・日曜市では休憩所を2か所設置、加えてれんけい小間では事業者が出店しない日は、その場所を休憩所として活用 ・間口拡大要望については随時対応 
実施効果	・観光 PR・特産品の販売場所として活用（れんけい） ・休憩所についてはある程度利用されている ・間口拡大や新規出店場所については、可能な限り出店者の要望に沿えるよう対応できている
課題等	・休憩所の数や場所が適切かどうかの検証が必要 ・休憩所の設置は日曜市のみとなっている

◆視点：教育・学び

お客様感謝事業の充実（主に市内保育施設へのお買い物券配布など）	
事業内容	出店者5組合が合同で結成している「高知市お客様感謝事業実行委員会」主催の「お客様感謝事業」については、お買い物券配布や（公社）高知県看護協会の協力による「まちの保健室」などが好評であり、これらを継続するとともに、さらなる集客につながるイベントを併せて行うなど、内容の充実を図ります
実施状況	・主に市内保育園・幼稚園に事業の周知を行い、「がいろいろいちおかいもの券」を配布することで、木曜市を中心に街路市でのお買い物体験を実施 ・「まちの保健室」は平成21年度から令和元年度まで開催したが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症拡大に伴い休止 
実施効果	「がいろいろいちおかいもの券」については、保育・幼稚園に好評である。また、園児たちの来市は出店者にも好評である
課題等	「まちの保健室」など、過去に好評であったイベントの再開についても検討が必要 

4. 社会情勢及び街路市における変化

前構想策定時から現在に至るまでの約10年間で、社会情勢は目まぐるしく変化してきました。それに伴い街路市においてもさまざまな変化が起こり、街路市利用者の新たなニーズが生まれる一方で、課題も生じています。

これらの変化を踏まえ、時代に即した施策や取組を検討していきます。

(1) 社会情勢の変化

●購買層の高齢化（若年層獲得の必要性）

全国的に少子高齢化が進行する昨今、街路市を日常的に利用する固定客も同様に高齢化が進んでいます。持続可能な街路市をめざすためには、若年層の地元利用者獲得が必要です。

●販売チャネルの増加（直販所・ネット販売等）

10年前に比べ、地域の直販所や量販店の直販コーナーなどが拡充傾向にあり、食品のネット販売も一般化しています。このような販売チャネルの増加は街路市に大きな影響を与えています。

●レジ袋の有料化（令和2年～）

環境問題への対応策として全国で始まったレジ袋の有料化。現在の街路市では、有料化した店と無料配布を継続する店に二分化しています。

●新型コロナウイルス感染症のまん延（令和2年～）

新型コロナウイルス感染症が世界中でまん延し、令和5年の5類移行までの間、街路市では開催見送りや開催時間短縮といった対応を迫られるなど、大きな影響を受けました。

●HACCP（ハサップ）衛生管理の義務化（令和3年～）

食品衛生法の改正をうけ、HACCPに沿った衛生管理が完全義務化されたことにより、街路市においても食品の製造販売（特に漬物の製造販売）に影響がありました。

●インバウンド需要の拡大

コロナ禍の落ち込みを経て、令和5年度の大型客船の寄港数は過去最多を記録するとともに、高知－台湾間の定期チャーター便が就航するなど、インバウンド需要が拡大し続けています。

●キャッシュレス決済の普及

近年、国内でのキャッシュレス決済の普及が加速しています。街路市でも、店舗によってはキャッシュレス決済を導入していますが、さらなる導入店舗の拡大が求められています。

第2章 過去の街路市に関する検討及び取組

(2) 街路市における変化

●出店者の減少

街路市全体の出店登録者数は減少を続けており、平成26年度(460件)から令和6年度(391件)の10年間で約70件減っています。これに伴う空き小間の増加も課題となっています。

●出店基準の緩和(平成28年～)

出店者の減少を受けて、食品や工芸品などの手作り加工品製造者やグループによる出店を可能とするなど、出店基準の緩和を実施しました。今後もさらなる出店基準緩和の検討が必要になると考えられます。

●販売品目の多様化

出店基準の緩和にあわせて、街路市の販売品目も多様化しています。平成26年度は新規出店者の8割が農家だったのに対して、令和5年度には手作り加工品製造者が8割と、その割合は逆転しており、農家以外の出店比率が年々高まってきています。

●れんけいこうち日曜市出店事業の開始(平成30年度～)

県内34市町村で取り組むれんけいこうち広域都市圏の事業の一つである「れんけいこうち日曜市出店事業」では、各市町村の地場産品販売や観光・移住のPRを行っています。この出店を皮切りに街路市への単独出店を希望する事業者も出るなど、出店者獲得の手段の一つとなっています。

●おためし出店の仕組みづくり

「れんけいこうち日曜市出店事業」をお試し出店の場としたり、新規出店者の負担軽減のため街路市専用テントを貸し出すなど新規出店のハードルを下げる取組を実施しています。

●出店時間の短縮化

街路市は従前から「終日市」として開催していますが、近年は出店者の高齢化などによりお昼過ぎには片付けや閉店する店舗が増加しており、いわゆる朝市化が進んでいます。

●街路市青年団の結成

街路市の若手出店者が主体となり、街路市活性化をめざして組織されました。定例会や出張日曜市など、さまざまな活動を行っています。

1. 各種調査を踏まえた現状整理

新たに街路市活性化構想を策定するに当たって、街路市の現状を把握するため各種調査を実施しました。調査内容については、過去の調査結果を踏まえ、街路市の変遷を把握する必要がある項目はほぼ従来通りとし、それ以外に、新たな変化への対応に必要と思われる項目を追加しました。（調査結果など詳細は資料編 P3～参照）

各種調査の概要及び結果

●日曜市利用者アンケート調査（令和6年9月15, 22, 29日の3日間実施）

日曜市来市者を対象に、居住地、日曜市への来市頻度、時間帯、来市の際の交通手段、購入品目、日曜市の魅力、日曜市へ求めるサービスなどの実態を把握し、日曜市に関わる諸施策を推進する上での基礎資料を得るため行いました。

結 果

- ・居住地割合は高知市内 21%，高知市を除く県内 4%，県外 70%
- ・全体の来市者年齢は 50～60 代が最多
- ・来市頻度では「初めて来た」人が最多の 41%。うち市内在住者では 1%
- ・来市時間は 7～10 時が 80%，13 時以降の来市は 1%未満
- ・日曜市を何時まで開催してほしいかの質問には「12～15 時」間の回答が 70%と半数超
- ・日曜市に求めるサービスは「駐車場」が最多。次に「食べ歩き商品の充実」，つづいて「キャッシュレス決済」「公衆トイレ」「バリアフリー」の 3 つが同得点の順で需要が高かった。

●通行量調査（令和6年5, 7, 9, 11月の各第1日曜日に実施）

日曜市来市者の通行量を把握し、過去の調査からの変化を確認するために、日曜市内の4地点で実施しました。

結 果

- ・平成9年度比較で約 40%減，平成 16 年度比較で約 31%減，平成 26 年度比較で約 20%減，令和元年度比較で約 7%減と，近年では下げ止まりつつあるものの，日曜市の通行量は減少し続けている。
- ・時間帯では 10 時～11 時の通行量が最も多く，昼を過ぎるとほぼ半減し，14 時～15 時は最も少なくなった。
- ・調査4地点別の4日間の合計でみると，「ひろめ市場交差点北東前」の通行量が 20,567 人と最多。次いで「中の橋交差点北西側」の通行量が 18,012 人と多かった。

●出店者アンケート調査（令和6年11月7日～11月17日に実施）

出店者の状況や意向，あるいは後継者の状況などについて，ヒアリング及びアンケート方式により実施しました。

第3章 街路市に関する調査

結 果

- ・街路市に出店する魅力（複数回答可）としては「お客さんが喜んでくれる」が最多。次いで「色々な人と話ができる」「自分の仕事や商品に誇りをもてる」が続いた。
- ・5年以内の廃業の可能性は「わからない」が42%で最多。「ある」は16%で、主な理由としては「後継者がいない」33%、「高齢」25%「売り上げ・お客の減少」13%が続いた。
- ・現在の営業終了時間は12～15時の間が87%と多くを占め、14時までが31%で最多

●観光事業者ヒアリング調査（令和6年11月22日～12月2日に実施）

高知県内外の観光事業者（11者）を対象にヒアリングを行うことにより、観光事業者や観光客の街路市へのニーズを把握するため調査を行いました。

結 果

- ・高齢者や欧米系の観光客への対応として、洋式の公衆トイレを増やしてほしいことや、公衆トイレの案内表示、休憩所、駐車場の充実を求める声が複数あった。また、若者向け店舗や食べ歩ける商品を増やしてほしいとの意見も出た。
- ・日曜市の開催時間は、現状の旅程や観光客の動きに合わせ15時までの希望が6者と最多。次いで13時までが3者と多かった。
- ・日曜市の風景（緑色のテント）は改善すべきとして「とくしまマルシェ」や「越前ふくいマルシェ」など他県の例を参考に挙げ、色や形状の工夫が必要とする声が複数あったが、一方で昔ながらの伝統として残すべきとの声も複数あった。

●市民ウェブモニターアンケート調査（令和6年9月20日～29日に実施）

高知市が募集している「市民ウェブモニター」に登録している、高知市在住者及び市外在住で高知市に通勤・通学している18歳以上の方187人を対象に、日曜市への訪問頻度や滞在時間、交通手段、魅力に思う点などの実態を調査しました。

結 果

- ・「どの街路市にも行ったことがない」と回答した人は6%
- ・「日曜市に1年以上訪れていない」と回答した人は28%
- ・1年以上訪れていない理由としては「駐車場・駐輪場がなく不便」が最多
- ・日曜市に求めるサービスは「休憩スペース」「駐車場」「食べ歩き商品の充実」の順で需要が高かった。

◎街路市利用者との座談会を開催しました！



令和6年10月19日（土）に、街路市に関心のある学識経験者や学生、一般、中心商店街の方、日曜市関係者を含む総勢24名を招き、街路市利用者のご意見を聞く座談会をワークショップ形式で開催し、街路市の魅力や課題について話し合いました。

高知らしさが
魅力だね

お店が少なく
なってない？

食べ歩きできると
もっといいのにな

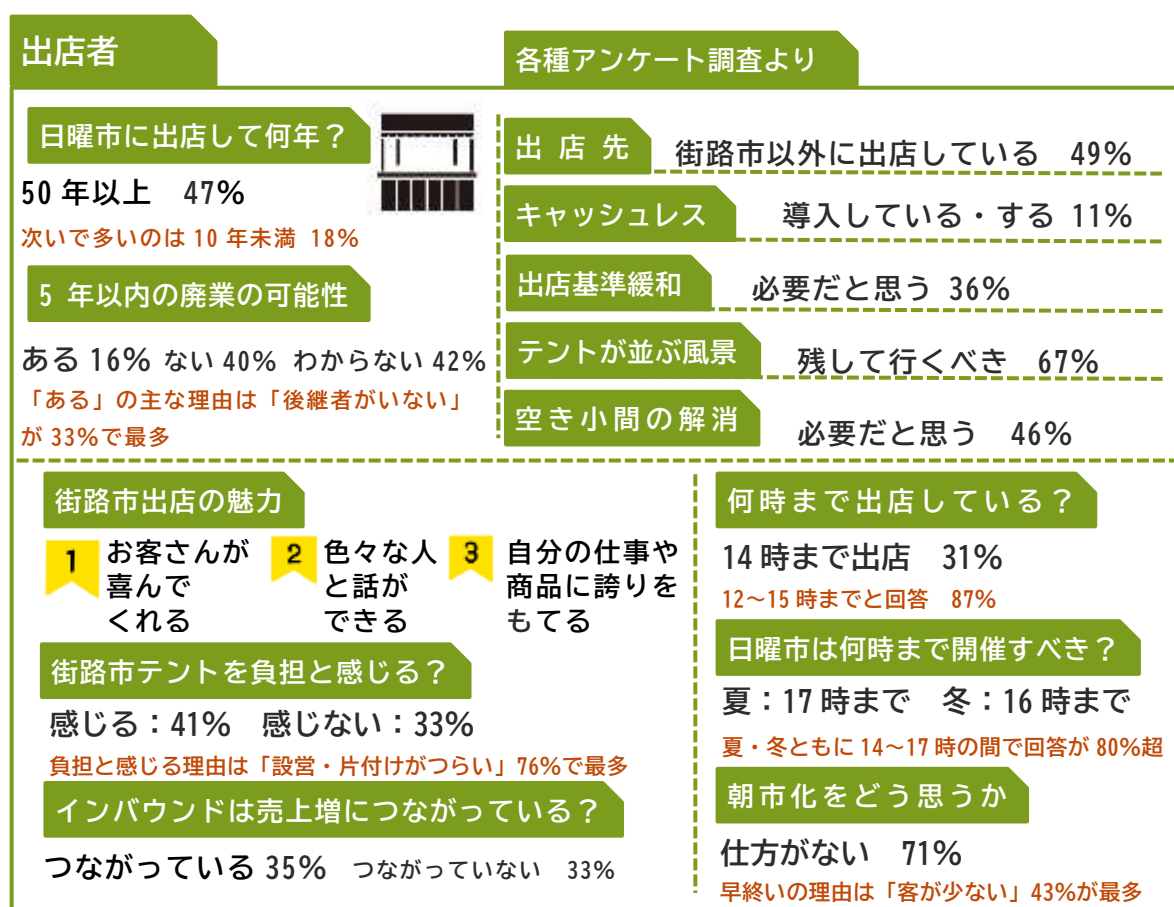
第3章 街路市に関する調査

2. 視点ごとの現状整理

各種調査や街路市活性化推進委員会などでの意見を踏まえ、視点ごとに現状整理をしました。

視点1：出店者

- ・街路市に50年以上出店し続けている人が約5割、10年未満は約2割
- ・街路市へ出店することは、喜びや誇りにつながり生きがいと感じている
- ・現在は12～15時の閉店が最多。望ましい終了時間は、夏17時まで、冬16時まで



各街路市の出店者で約半分を占めたのは「50年以上出店」しているベテラン勢。一方で「10年未満」の新規勢が18%で次点となり、高齢化や跡継ぎ問題などで減少傾向にあるものの、出店基準の緩和などでハードルを下げる施策の効果が現れています。街路市に出店する魅力としては「お客さんが喜んでくれる」、「自分の仕事や商品に誇りがもてる」などが上位となり、出店者が生きがいと捉えていることが伺えます。また、近年店じまいが早まっていることについては、7割が「仕方がない」と回答しており、現在は12～15時まで出店している人が8割超えの結果となっています。ニーズが高まっているキャッシュレスの導入は現在11%と低く、今後の取組が望まれます。

第3章 街路市に関する調査

視点2：地元利用者

- ・地元利用者は、市内・県内ともに引き続き減少している
- ・「新鮮な季節の品がお手頃価格で手に入る」のが日曜市の魅力
- ・毎週～月1回農産物目当てに昼前までに来市，1時間以内で買い物をする

地元利用者

日曜市利用者アンケート



女性 68% 男性 32%

年 齢／50～60 歳代が最多

居住地／高知市内から 21%
県内各市町村からは 4%

来市頻度 毎週～月1回 82%

来市時間 7時～8時 54%
97%が昼12時までの時間帯で回答

滞在時間 1時間以内 61%

購入割合 購入する 86%

交通手段 自家用車 45%・自転車や徒歩 43%

日曜市の魅力

- 1 品物が新鮮
- 2 季節感を味わえる
- 3 値段が安い

日曜市に求めるサービス

- 1 駐車場
- 2 食べ歩き商品の充実
- 3 ・キャッシュレス
・公衆トイレ
・バリアフリー

日曜市を人に勧める？ ※0から10で回答

とてもすすめたい 47% (10をつけた人)

※5～10をつけた人では 95%

日曜市の開催希望時間

14時～15時まで開催 29%
15時以降までと回答 19%

日曜市で購入する物

農作物（青果・加工品含む）66%
農作物以外は各10%以下

商店街へ立ち寄る？

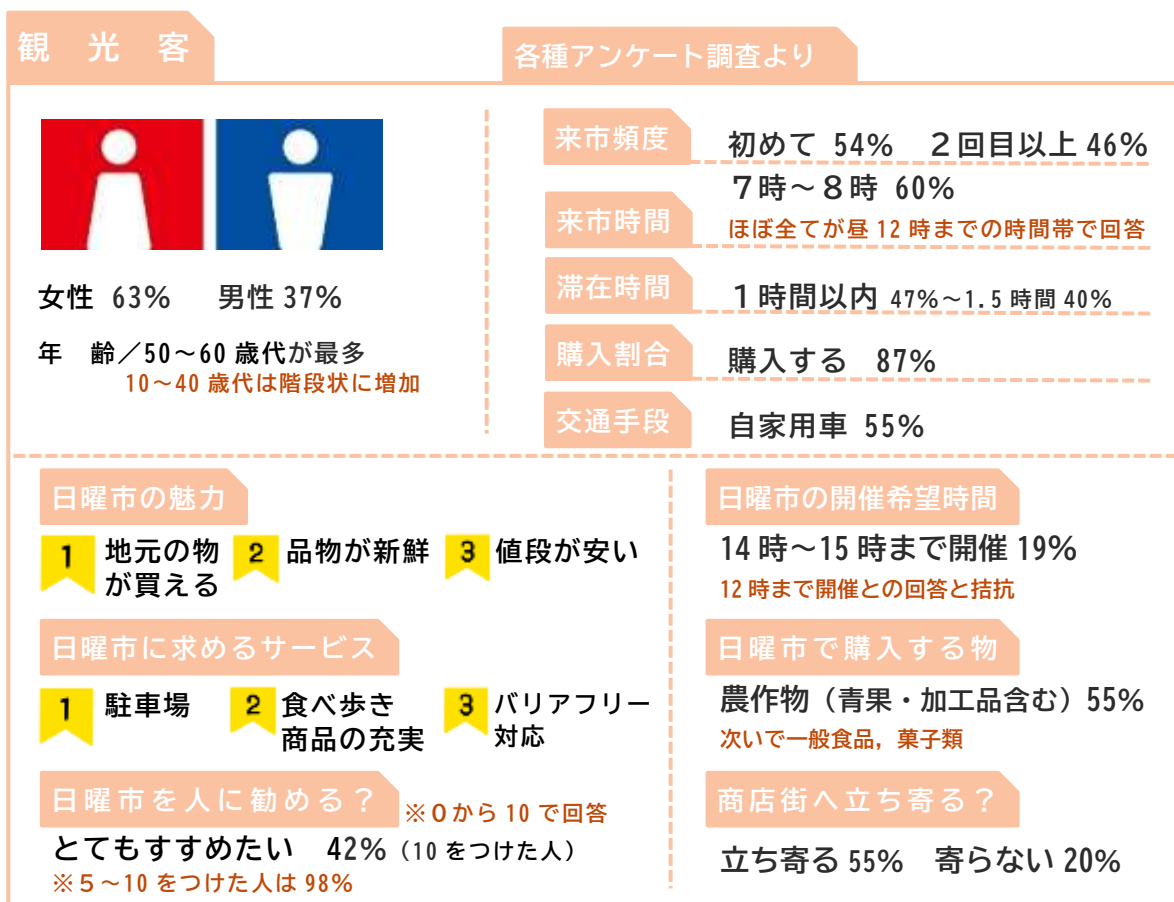
立ち寄る 50% 寄らない 41%

市内の地元利用者は、過去調査と同様に減少を続け今回調査では来市者全体の21%で、年代は50歳以上～70歳未満が50%と最も多い結果となり、利用者の高齢化も引き続いていきます。地元利用者の多くは、最低月1回利用する高知市在住者で新鮮で安価な農産物を目当てに来市していて、生活市として変わらず愛されていることが分かります。

街路市活性化推進委員会では「街路市の歴史上で廃止の危機もあったが、利用者の声で存続してきた。生活市として地元利用者が必要と思ってもらうことが大切」との意見が出ており、街路市をこの先も存続していくためにも『若年層の地元固定客』を獲得していくことが必要とされています。

視点3：観光客

- ・観光客は引き続き増加傾向で全体の約70%を占めている
- ・高知の新鮮な農産物や個性的な食品が安価で買える！素朴な雰囲気も魅力
- ・『食べ歩き』と『キャッシュレス』が新たなニーズとして浮上



クルーズ船寄港や台湾からのチャーター便就航などにより、外国人観光客が増加しています。これにより、出店者の言語対応の問題や、検疫のため購入品目が限られるなど新たな課題が生まれています。また、インバウンドを含めた観光客全体からの「キャッシュレス決済」に対するニーズが高まっており、消費拡大のためにも街路市での対応の広がりが求められています。

近年顕著な店舗の営業時間短縮（朝市化）については、午後からの来市者の減少と出店者の減少が互いに影響しているものと推察されますが、このことが観光客の来市や買い物の機会を損なっていると考えられます。

街路市活性化推進委員会においても「全国的に珍しい終日市なので一定の時間まで開けるべき」、「観光関係者としては夕方まで開けてもらいたい」などの意見が出ており、出店者の事情も考慮しながら、解決策を検討していく必要があります。

第3章 街路市に関する調査

視点4：景観

- ・街路市専用テントが並ぶ伝統的な『景観』は街路市の大きな魅力
- ・ごみを含めた周辺環境の美化と整備の継続が必要
- ・気候変動による暑さ対策などは今後の課題

●街路市ならではの『景観』維持

300年以上の歴史を誇る街路市は、生活市であるとともに今や高知を代表する観光スポットとして、国内はもちろんインバウンド観光の面からも注目を集めています。国内外問わず人々を惹きつける魅力としては、種類豊富な商品や土佐弁が飛び交う素朴な雰囲気はもちろん、街路市の『景観』もその一つと言えます。出店者が建てた共通のテントが通りにずらりと並ぶ景色は『高知の街路市』ならではの景観を形づくる大切な要素となっています。

しかしながら、近年は、街路市専用テントが一般的なテントよりかなり高額であることや、設営などに手間がかかるなどの理由から、新規出店者が、一部のエリアで認められている一般的なテントでの出店に偏る傾向にあり、街路市専用テントでのみ構成されるエリアの空き小間の解消にはつながっていないことが課題となっています。

●にぎわい創出から周辺環境の美化・整備まで

日曜市の利用者アンケートでは、大きく3つの点で景観に関する意見が見られました。

- ・空き小間の増加＝『にぎわいがなくなった』『寂しく感じる』『出店が少ない』
- ・気候変動による暑さや雨天対応＝『屋根が欲しい』『日陰が欲しい』『扇風機の設置』
- ・街路市の美観＝『ごみの放置が目立つ』『ごみ箱が欲しい』

伝統的な景観を守りつつ利用者のニーズや環境変化への対応が同時に求められています。

Voice 街路市利用者の声

※日曜市利用者アンケートの自由回答から抜粋

▼空き小間の増加

- ・所々お休みの店があって寂しい
- ・昔よりお店が少なくなった
- ・お店同士の間隔がもっと狭い方がいい。寂しく感じる
- ・店が少なく、時間が短くなった
- ・できるだけ出店数を減らさずに継続してほしい

▼暑さ・雨対策

- ・日差しや雨をよける屋根が欲しい
- ・夏の日陰や屋根が欲しい
- ・日傘をさしたいけど歩きにくい

▼ごみ問題

- ・ごみを道にそのまま捨てる人がいて見た目が悪い。ごみ箱が必要
- ・ごみ箱を増やしてほしい

視点 5：教育・学び

- ・ 高知ならではの食材・料理を食べたことがある小・中学生は 80%を超える
- ・ 街路市は『食材の宝庫・高知』を体感できる存在
- ・ 生きた学びや社会貢献の場として一歩踏み込んだ街路市の活用を

●高知の食（食材・食文化）を次世代へつなぐ

豊かな自然環境に育まれた食材に恵まれ、地元ならではの食文化を持つ高知。街路市の多くの店は生産者自らが販売まで手掛けており、店先での会話の中で食材はもちろん栽培や調理法など食文化までを学べる『食材の宝庫・高知』を体感できる貴重な場でもあります。

令和5年度策定の第4次高知市食育推進計画のデータでは、高知ならではの料理や食材を食べたことのある小中学生は 80%を超えており、高知ならではの食文化を次世代へ伝えていく大切さを感じている市民は約 85%となっています。街路市は、次世代の子どもたちへ高知ならではの食文化を継承するためにも欠かせない存在であり、その学びの場として最適であると言えます。

●教育機関との連携

次世代を担う子どもたちや若者に向けて、大学や高校などの街路市出店体験への支援や、保育園・幼稚園や小学校の遠足、見学での利用促進など、街路市に関わる機会を提供することにより、子どもの頃から高知の街路市文化・食の魅力に直接触れてもらえるような取組を継続しています。

街路市活性化推進委員会では、街路市の見学だけにとどまらず「街路市の食材が家庭でどのように調理されているかまでを子どもたちに学んでもらうことが必要」との意見が出ており、今後はさらに一歩踏み込んだアプローチが求められています。

Column 情報発信の手法

街路市の情報発信について、日曜市利用者アンケートによると認知度が最も高いものは公式ホームページ（25%）、次いで Instagram（10%）、Facebook（4%）となり、どれも見たことがない人が 61%となりました。

認知度の高いコンテンツを磨くとともに、情報発信ツールや手法の厳選や見直しで、利用者により届く効果的な情報発信が求められています。



▲土曜の日曜市ホームページ

第4章 街路市の魅力と課題

1. 街路市の魅力

地元利用客や観光客などに人気がある街路市ですが、どのような魅力があるのでしょうか。各種アンケート調査の結果や、街路市活性化推進委員会での意見などを踏まえ、各視点から見た街路市の持つ魅力について整理していきます。

街路市の魅力

・ 地元の新鮮な旬の野菜などが並び、 手頃な価格で買うことができ季節を感じられる	地元利用者	観光客
・ 多種多様な商品が並び、素朴で生活感あふれる雰囲気	地元利用者	観光客
・ 土佐弁が飛び交う出店者の温かさに触れ、 人のつながりが生まれるコミュニケーションの場	観光客	出店者
・ 300年の歴史があり先人が守り育ててきた「街路市文化」		出店者
・ 独特のテントが並び立つ景観は、高知の魅力を象徴する観光資源		景観
・ 出店体験など生きた学びや社会貢献ができる教育・学びの場		教育・学び

それぞれの視点から見た魅力の『磨き上げ』を

街路市は、出店者にとっては生きがいを感じる場、地元利用者にとっては昔から続く生活の場として、そして国内外から多くの人々が足を運ぶ観光スポットとして…と視点ごとに魅力を備えています。

また、お城下にテントが立ち並ぶ景色は高知を象徴するものであり、出店体験やボランティア参加など、街路市は子どもたちにとっての社会貢献や生きた学びの場としても大切な存在です。

それぞれの魅力をさらに磨きあげること、未来へ向けた『持続可能な街路市』への道筋をつけることが必要です。



▲日曜市を代表する景観（テント・街路樹・高知城）

2. 街路市の課題

ここ数年の変化の激しい時流の中で、街路市にはどんな課題が出てきたのでしょうか。各種アンケート調査の結果や、街路市活性化推進委員会での意見、5つの視点からの意見などを踏まえ、今の街路市における課題について整理していきます。

街路市の課題			
・全体的な出店者の減少 (高齢化, 後継者不足, 農産物の新規出店者減)	出店者	景観	
・特に火曜市・金曜市の出店者の減少		出店者	
・新規出店におけるハードルの高さ (専用テントの確保, 出店基準)		出店者	
・地元利用者の減少, 高齢化	地元利用者	教育・学び	
・インバウンド対応が不十分 (言語対応, 購入できる商品の制約)		観光客	
・キャッシュレス決済の不十分	地元利用者	観光客	
・リピーターの確保		地元利用者	
・出店時間の短縮化(朝市化傾向)	出店者	地元利用者	観光客

時代の変化に即した対策の実施が必要

出店者・地元利用者の減少や高齢化など、継続している課題はもちろん、街路市を取り巻く状況や時代の変化によって生まれた新たな課題への対応が求められています。レジ袋有料化や HACCP に沿った衛生管理など法令によるものから、インバウンド観光の増加、キャッシュレス決済や EC 販売の普及といったデジタル化への対応、食べ歩きメニューの増加など食のトレンドによるものまで、課題も多様化しているのが現状です。

街路市を発展・維持していくためには、出店者側と行政側の双方が、時代の変化に即して柔軟に対応していくことが必要です。

Column HACCP って？

HACCP (ハサップ) は、「Hazard (危害), Analysis (分析), Critical (重要), Control (管理), Point (点)」の頭文字をとってできた造語で、国際的な食品衛生管理手法です。

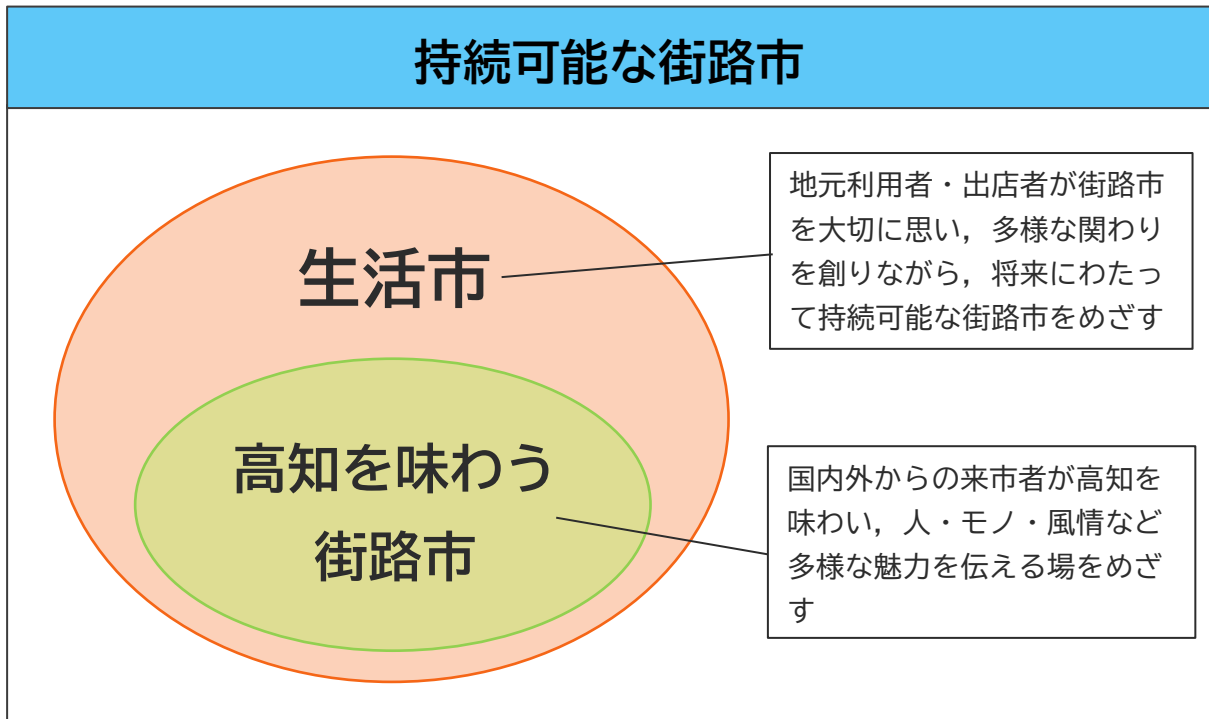
日本でも令和3年6月から、HACCP 導入・運用が完全義務化となり、街路市の商品もその対象になっています。

第5章 活性化に向けた基本方針と取組

1. 基本理念

(1) 街路市活性化のための基本理念

本構想では、各視点を考慮しつつ、魅力はさらに磨き上げ、課題については時代の変化に即した対策を講じながら解決に向けて取り組むこととし、街路市活性化のための基本理念を次のように設定します。



これまでの生活市としての街路市のたたずまいやイメージを維持・継続させつつ、同時に観光資源としての価値向上を図り、持続可能な街路市をめざします。

- ◆ 「街路市は生活市」を念頭に、「重要な観光資源」でもあることを意識した取組を実行します。
- ◆ 行政だけでなく、出店者や関係団体と協力しながら、将来にわたって街路市を守り発展させることで「持続可能な街路市」をめざします。
- ◆ 宿泊施設や近隣商店街、街路市を愛する方々などと多様な関わりを深めます。
- ◆ 教育機関と連携し、学生や子どもたちに街路市に親しんでもらうきっかけをつくります。

高知市街路市活性化構想

第5章 活性化に向けた基本方針と取組

(2) 将来像

平成26年度に策定した高知市街路市活性化構想及び関連計画、令和6年度実施の各種調査や街路市活性化推進委員会の意見を参考に街路市の魅力と課題の洗い出しを行いました。「持続可能な街路市」という基本理念のもと、今後、めざすべき8つの将来像を示します。

(1) 出店したくなる街路市

ハード面、ソフト面の整備やサポートを充実させることで、街路市の主役である出店者が出店しやすく、長く出店し続けたいと思えるような環境づくりが進む街路市

(2) 古き良き伝統が守られている街路市

お城下に昔ながらの街路市テントが立ち並び、土佐弁が飛び交う素朴な雰囲気が作り出す地元らしさ・高知らしさを「伝統」として大切に守っていく街路市

(3) 気軽に立ち寄りたくなる街路市

「生活市」としての魅力はそのままに、市で販売される地元食材をおいしく食べる料理教室や周辺商店街との連携など、買い物+αを楽しめる、足を運びたくなる街路市

(4) 安心・安全で持続可能な街路市

出店者や街路市利用者が安心・安全に過ごせる環境が整い、誰もが利用しやすいよう、広く情報が発信・活用されている街路市

(5) 誰もが知っている街路市

子どもや学生から大人、高齢者まで幅広い世代が街路市の魅力を知って、それを周囲に「おすすめしたい!」と感じ、みんなが魅力を語れる街路市

(6) 高知と言えば「街路市!」となる街路市

高知を代表する観光スポットの一つとして、国内外の観光客にとって「高知に行くなから外せない」場所であり、高い満足度を得られる街路市

(7) 学びの場としての街路市

先人が守ってきた高知の街路市文化を理解し、地元食材の生産から販売、その味までを知ることができる、子どもたちの学びと体験のフィールドとして活用される街路市

(8) 多様な連携によりつながる街路市

出店者、観光事業者、県内各市町村など、街路市に関わるさまざまな団体や企業と連携し、たくさんの人やモノとつながることができる街路市

(3) 目標年次

本構想は時勢の変化に対応するため、目標年次は 5 年後の令和 11 (2029)年度とします。

第5章 活性化に向けた基本方針と取組

2. 施策の体系

構想の実現に向け、以下のように将来像とその視点、基本方針を体系化しました。



3. 活性化に向けた基本方針と取組

街路市を「持続可能」なものにしていくために設定した、8つの将来像を実現するための基本方針と具体的な取組について、整理していきます。

出店者

景観

将来像

(1) 出店したくなる街路市

基本方針：出店しやすい環境づくり

出店者あつての街路市ですが、高齢化や後継者不足、時代の変化などの影響により、出店者数は減少傾向にあります。

これまでの街路市活性化の取組により、出店基準の緩和による新規出店者の増加には一定の成果があるものの、街路市の主役ともいえる農産物を扱う新規出店者は極めて少ない状況です。

農業従事者の担い手不足という、日本の農業自体が抱える問題の影響もありますが、農業従事者にとっては、街路市に出店するよりも、手数料がかかっても直販所や産直コーナーに販売を委託するほうが効率がよいと考えているとの話もよく聞かれます。

将来にわたって街路市の出店者を確保していくためには、こういった若い世代の農業従事者などにとって出店することに魅力を感じる街路市にしていく必要があります。

そのため、出店者の負担となっている課題について、可能な限り解消するための取組を行うことにより、出店しやすい環境をつくっていきます。また、このことは既存の出店者にとっても長く出店を続けてもらうことにもつながります。



▲街路市専用テントは街路市らしい景観をつくる大事な要素の一つ



▲テントや商品棚などを持ち込み設営する労力が、現状は大きな負担となっている

<主な取組>

拡充 お試しテントの積極的な貸出し

NEW チャレンジ出店の実施

拡充 出店基準の見直し（酒類販売など）

NEW 専門アドバイザーなどによる助言・セミナー開催

NEW 出店サポートの検討（テントの代理設営・撤去）

第5章 活性化に向けた基本方針と取組

出店者

景観

教育・学び

将来像 (2)古き良き伝統が守られている街路市

基本方針：街路市文化を後世に残す

高知城をバックに緑の街路樹とテントが立ち並び、たくさんの人が行き交う日曜市。住宅街の水路上に敷いた板の上で商品を販売する火曜市。オフィス街の路上にお店が並ぶ木曜市。線路の高架化と共に歩みを変えてきた金曜市。いずれも、高知ならではの風景の1コマとなっています。

風景以外にも、お店が混在する中で、出店者と地元利用者との間で土佐弁が飛び交う素朴な雰囲気も高知の街路市の魅力と言えます。

流通の多様化やネット販売の浸透により、あらゆるものが気軽に手に入られる現代において、地元の商品を地元の人と言葉を交わしながら買い物ができる機会は、失われつつあります。

こうした街路市の文化を、時代が変わっても「高知らしさ」、「地元らしさ」の象徴として残していくべきであるとの声が、出店者だけでなく、地元利用者や観光客、関係団体から多く聞かれます。

街路市が来市者とのコミュニケーションの場となっていることを、出店者に引き続き意識してもらうことや、街路市テントが今後も活用されるべく必要な支援を行うことなどにより、高知の街路市文化が失われないよう取り組んでいきます。

また、現在の出店者の様子などを、アーカイブ映像として記録し、後世に残していく取組も行っています。



▲街路市テントが隙間なく並ぶお城下の風景は日曜市ならではの風景



▲地元食材の食べ方や栽培方法など出店者と来市者のコミュニケーションも市の魅力の一つ

<主な取組>

- NEW** 街路市のアーカイブ動画制作
- コミュニケーションの場としての意識付け

地元利用者

出店者

将来像 (3) 気軽に立ち寄りたくなる街路市

基本方針：地元利用者を増やす

多くの出店者にとって、地元利用者、中でも毎回のようには必ず買い物に来てくれる固定客（いわゆる常連さん）は、安定した収入を得るためにも大変ありがたい存在です。

しかしながら、社会全体の高齢化に伴い、地元利用者も高齢化しつつあり、来市することが困難になっているといった問題もあります。

加えて、販売チャネルの増加などにより、特に若い世代は街路市よりも利便性の高い量販店で買い物をするなど、地元利用者の街路市離れが進んでいます。

あらゆる商品が1か所にまとまった量販店の方が、街路市よりも効率的に買い物ができることは間違いありませんが、街路市には「旬の商品を生産者から直接購入できる」といった、街路市ならではの魅力があります。こうした魅力が伝わり切っていないことが、地元利用者減少の一因になっているのかもしれない。

地元利用者の減少については、近隣商店街でも同じ問題を抱えており、共通の課題を抱える者同士で相互に協力していく必要があります。

若い世代からお年寄りまで、街路市の魅力を再発見してもらえるようなPRの実施、近隣商店街との連携、気軽に訪れてもらえる仕組みづくりを行い、地元利用者の獲得を図っていきます。



▲高知の伝統的な食材を購入するだけでなく、その特徴や背景・調理法などを次世代へ伝えるきっかけづくりの場に



▲日曜市と通りを並べる中心商店街との連携を深め、双方へ回遊できる仕組みづくりは重要

<主な取組>

NEW 野菜・食材を使った料理教室開催
商店街との回遊性向上のための取組

第5章 活性化に向けた基本方針と取組

出店者

地元利用者

観光客

景観

教育・学び

将来像

(4)安心・安全の持続的な街路市

基本方針：街路市の安全管理と維持

江戸時代から 300 年以上続く街路市文化は、高知の人や風土に育まれながら、現在まで受け継がれてきました。この街路市文化を維持発展させるためには、これまでの取組を継続するだけでなく、時代の変化に応じた新たな取組も進めなければなりません。

各街路市は、道路上もしくは道路に隣接して店が並んでおり、歩行者の安全確保はもちろん、道に不慣れた車も通行することから、万全な安全対策が求められます。現在行っている、日曜市での警備員配置や安全機器設置といった安全対策は、今後も継続して実施します。

また、あらゆる来市者が存分に街路市を楽しみ、継続して来市してもらうための対策についても、出店者側と協議を進めながら、効果的な取組を行います。

街路市の維持のためには、開催主体である高知市と出店者との円滑なコミュニケーションが欠かせません。現在は、出店者向け広報紙「いち版」を印刷配布する形で、情報提供や周知活動を行っていますが、全ての出店者に配布できない、即応性に欠けるなど、課題があることも確かです。これら課題に対応するためのデジタル技術の活用を進めます。

一方で、高知市独自での対応には特に費用面で限界があるため、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税など、新たな財源確保手段の積極的な活用も検討していきます。



▲路上で開かれる街路市を安全に開催するには、警備員の配置や安全機器の設置が欠かせない



▲早く店じまいをしてしまうと来市者が街路市を楽しめない



▲出店者向け広報紙「いち版」は長く使われているコミュニケーションツール

<主な取組>

NEW 出店者の情報共有手段の確立

NEW 企業版ふるさと納税の活用・財源確保

NEW 営業時間の明確化

地元利用者

観光客

将来像 (5) 誰もが知っている街路市

基本方針：情報発信・街路市のPR強化

街路市，とりわけ日曜市は観光客にも認知されていますが，その本質的な魅力は多くの方にまだまだ伝え切れていないところです。

四季折々の新鮮な旬の食材や，高知ならではの特産品が並ぶ光景，直販所や量販店の産直コーナーでは得られない，土佐弁を交えた素朴で温かい生産者との会話など，街路市には，実際に訪問してみても初めて分かる魅力がたくさんあります。

令和6年9月に実施した日曜市利用者アンケートにおいても，日曜市を訪れた9割以上の方から「満足した」との回答を得ています。

このように，実際に訪れてみることで高い満足を得られる街路市の魅力を，わかりやすくかつ広くPRしていくことにより，地元客も含め，これまであまり街路市に興味のなかった方が訪れたいくなるようなきっかけづくりとしていく必要があります。

特に，街路市を将来にわたって存続させていくためには，若い世代のリピーターを増やさなければなりません。そのアプローチとして，ホームページの充実のみならず，特に若い世代の情報源となっているInstagramやFacebookに代表されるSNSを駆使することで，街路市の魅力を発信していきます。

併せて，地域おこし協力隊の任用，令和8年度に150周年を迎える日曜市の記念イベントの企画など，多角的な視点に立って積極的な発信に取り組みます。



▲高知にゆかりのある漫画家が制作したイラストを用いたポスターは県内各地で目にする事ができる



▲好評な日曜市のパンフレット

<主な取組>

NEW 地域おこし協力隊の任用

NEW 日曜市150周年企画の検討（令和8年度）

拡充 ホームページの充実・SNSの効果的な発信

第5章 活性化に向けた基本方針と取組

観光客

出店者

将来像 (6)高知といえば「街路市！」となる街路市

基本方針：観光・インバウンドを意識した取組

日曜市利用者アンケートによると、日曜市を訪れた来市者の約7割は、県外から訪れた観光客の方々です。このことからわかるように、日曜市は高知を代表する観光地として、多くの方に認知されていると言えます。一方で、同アンケートでは5割の方が「初めて来た」と回答しており、観光客のリピーター確保という点では、まだまだ伸びしろがあります。

さらに、この数年間で大型客船の寄港が増え、台湾からのチャーター航空便が就航するなど、外国人観光客が高知に訪れる機会が増加しています。街路市を訪れる外国人観光客も多く見られるようになりましたが、言語対応の問題やキャッシュレス決済導入店舗の少なさなどから、購買につながっているとは言い難い状況です。

国内外を問わず、観光客の方々の満足度を高めるためには、観光客が利用しやすい環境整備を行わなければなりません。需要の多いキャッシュレス決済や情報発信の強化はもちろん、屋外開催ゆえに欠点となる暑さ対策や、来市者が利用可能な周辺トイレの案内など、観光客が必要とする情報提供にも取り組んでいく必要があります。

観光やインバウンドを意識した取組を進め、「街路市があるから高知に行く」、「また街路市に来たい」と、一人でも多くの観光客の方に思ってもらえるような街路市をめざします。



▲個人・団体問わず来市者の割合は観光客が増え続けている



▲外国人観光客にジェスチャーを用いて商品を説明する出店者も

<主な取組>

- NEW** 休憩所の暑さ対策
- NEW** 出店者情報・トイレなどの案内表示の充実
- NEW** キャッシュレス決済の普及促進
- NEW** 外国語対応可能な団体への協力要請

将来像 (7) 学びの場としての街路市

基本方針：子どもや学生の関わる機会を増やす

街路市は、子どもたちや学生の学びの場としても利用されています。

県内外を問わず、大学や専門学校などの高等教育機関においては、街路市を研究の対象とする学生も少なくありません。高知市では、こうした研究活動に積極的に関わっており、今後も可能な限りの助言や協力を行います。

また、街路市では各種学校による出店体験も随時受け入れています。出店体験は商品販売を学べるだけでなく、出店者にとっても、若い活力を感じられ刺激を得られるといった、相乗効果を生み出す絶好の機会です。多くの学校が出店体験を行えるよう、多様な取組を展開します。

毎年秋ごろになると、高知市内や周辺地域からたくさんの保育施設・小学校の子どもたちが、街路市に見学・遠足に来てくれます。高知市では、あらかじめ把握できた子どもたちの来市予定を出店者に共有し、子どもたちがお買い物を楽しみやすい環境を整えるお手伝いを行っています。幼いころに街路市に触れ、身近に感じてもらうことは、未来の街路市関係者（利用者・出店者など）を育てるための大切な一歩です。こうした現在の取組に加え、例えば、校内での学習に利用可能な資料を提供するなどして、街路市を通じた子どもたちの学びにも積極的に関わっていきたいと考えています。街路市を単なる買い物体験の場ではなく、学びの場としても活用してもらえらるための取組を進めます。



▲学校の出店体験は、学校だけでなく、出店者や来市者からも好評



▲各街路市は、見学や遠足、親子での買い物体験の場としても活用されている

<主な取組>

- NEW** 街路市活性化構想を学校の副読本に活用
- 出店体験の積極的な受入れ
- お客様感謝事業の実施

第5章 活性化に向けた基本方針と取組

出店者

地元利用者

観光客

教育・学び

将来像 (8)多様な連携によりつながる街路市

基本方針：街路市への関わりを増やす

出店者の多くが加入する出店者組合とは、高知市街路市運営協議会を通じて、互いに情報共有や助言協力を実施しています。また、出店者の若手有志が集った街路市青年団は、イベントの企画実施やエコバッグ販売など、多角的な活動を通じて街路市の魅力を発信しており、高知市も活動を後押ししています。今後もこれらの団体との良好な関係を維持し、出店者の意向も可能な限り反映し取組を展開します。

平成30年度より実施している「れんけいこうち日曜市出店事業」では、県内の各市町村に点在する事業者が日曜市に出店しており、単に商品の販売だけでなく、市町村の観光や移住のPRも行っています。今後も各市町村と意思疎通を図りながら、事業の継続を行います。

近年は、商店街関係者や各種学校などからのイベント出店需要も増えてつつあることから、こうした出店を受け入れられる体制を整えます。

そのほか、近隣の宿泊施設や観光施設、旅行会社や交通各社といった観光事業者、街路市を利用する飲食店関係者など、街路市に関わる企業・団体とのつながりを増やし、ニーズの把握と効果的な取組の展開に努めます。



▲高知市街路市運営協議会では、街路市について多様な議論を行っている。



▲れんけいこうち日曜市出店事業は、各市町村にとって絶好のPRの場

<主な取組>

出店者組合、街路市青年団などとの連携

NEW

ホテルなどの観光事業者との連携

拡充

イベント出店の積極的な受入れ

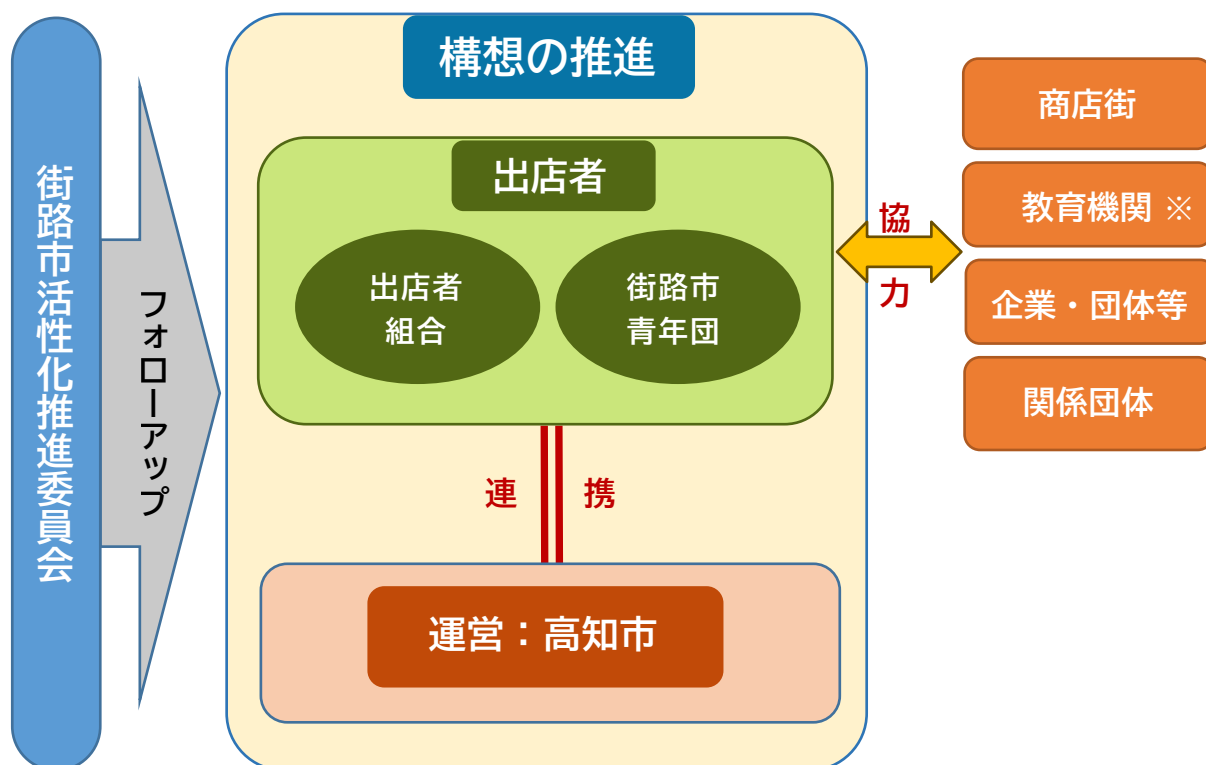
れんけいこうち日曜市出店事業

1. 構想の推進体制とフォローアップ

(1) 構想の推進体制

街路市の活性化を実現するためには、出店者（出店者組合・街路市青年団など）と高知市が連携し、関係団体などの協力を得ながら構想の推進を行う必要があります。

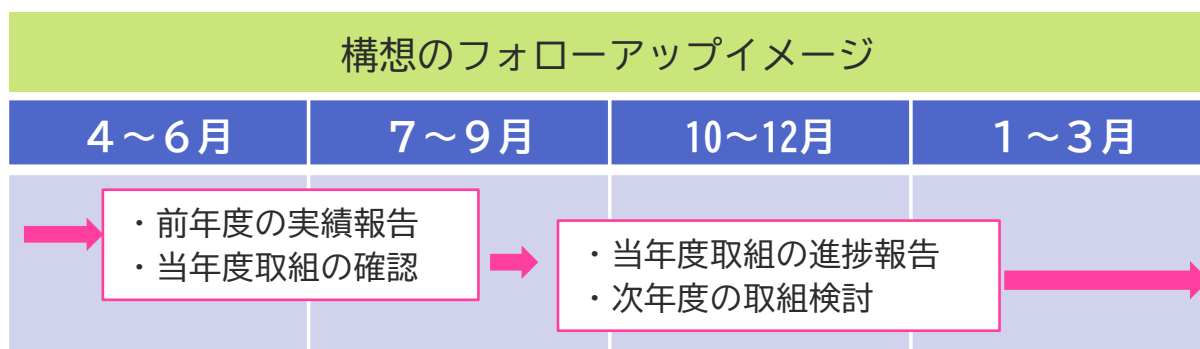
街路市活性化推進委員会は、構想の推進のためにフォローアップを行っていきます。



※保育園、幼稚園、小・中・高校・大学・各種専門学校

(2) フォローアップ

各年度における取組内容とその進捗管理については、事前に出店者などと協議を行い、街路市活性化推進委員会でのフォローアップを受けながら進めていきます。



第6章 活性化の実現に向けて

2. 構想の指標

本構想の検証については、街路市活性化推進委員会が中心となって、構想で策定した基本方針に基づく取組の実施状況と効果の確認を行うことにより、取組の着実な遂行と目標達成を図っていきます。

本構想の検証・評価のために、次の4つの指標を設定します。

指標1：通行量

指標概要	単位		基準年度		目標年度
日曜市内の通行量	人/4回 合計	71,965	令和6 (2024) 年度	80,000	令和11 (2029) 年度

指標2：出店登録者数の推移

指標概要	単位		基準年度		目標年度
出店登録者数	人	391	令和6 (2024) 年度	400	令和11 (2029) 年度

指標3：地元利用者数

指標概要	単位		基準年度		目標年度
来客数に占める地元利用者数 県内在住	%	25※	令和6 (2024) 年度	35	令和11 (2029) 年度

※ 日曜市利用者アンケートにおける県内在住者の割合

指標4：観光客の満足度の比率

指標概要	単位		基準年度		目標年度
友人や同僚に日曜市を 勧めたいと思う県外客の割合	%	94※	令和6 (2024) 年度	95以上	令和11 (2029) 年度

※ 日曜市利用者アンケートにおける県外客の中で、日曜市をお勧めしたいと回答した割合（10段階中6～10を満足と評価）より算出

高知市街路市活性化構想

策定年月：令和 7 年 3 月

発 行：〒780-8571

高知市本町五丁目 1 番 45 号 第二庁舎 2 階（204）

高知市商工観光部 商業振興・外商支援課（街路市担当）

電 話：(088)823-9375

F A X：(088)823-4024

E-mail：kc-151703@city.kochi.lg.jp